

再会

また、さようなら

村井
友理子

【人物一覧表】

西多恵子（50）（写真・25）

竹内真木子（48）（写真・23）多恵子の妹

竹内静江（75）多恵子の母

西美織（25）多恵子の娘

西浩二（享年50・写真25）多恵子の夫

住職

葬式場スタッフ

参列者

○ 葬式場・親族控室（早朝）

畳の上でじっと横になっている西多恵子
(50)。

扉を開けて西美織(25)がそっと入ってくる。

美織「ママ、少しは寝れた？」

多恵子、起き上がって美織の方に振り向く。

多恵子「美織、ありがとう。うん、ちよつとは」

美織「：そうだよね。でも少しでも眠れたなら良かった」

扉を開けて竹内静江(75)が入ってくる。

静江「起きてたね、多恵子」

多恵子「お母さん、私の代わりに、色々ありがとう」

静江「うん、大丈夫よ。あんたも急なことだったからね：疲れたでしょう。ところでね。ちよつと：」

おどおどしながら多恵子を見る静江。

多恵子「なに？」

静江、美織の方を見る。

静江「美織ちゃん、ちよつとだけママと二人にしてもらえるかな？」

美織、不思議そうに、

美織「え？うん。わかった」

扉から出ていく美織。

静江、ゆつくりと多恵子に近寄る。

多恵子「どうしたの？」

静江「：うん、あのね。あの子：真木子のこ
となんだけどね」

多恵子の顔が曇る。

多恵子「：誰？それ」

静江「多恵子：」

静江に背を向けて横になる多恵子。

静江「どうしても：今日浩二さんにお別れが
言いたいたっていうのと、あと：」

多恵子「なにそれ？気持ち悪い」

静江「何よりやっぱり多恵子にどうしても会
いたいたって。もう二十五年も会ってないで

しよう。それにあの子実はね：」

多恵子、遮る様に少し大きな声で、

多恵子「お母さん！」

静江、多恵子の声にびくつとする。

多恵子「どの面下げて私に：しかもよりにもよって浩二の告別式に来るつもりなの？」

静江、無言で多恵子の背中を見つめる。

多恵子、拳を強く握りしめる。

○葬式場・ホール

住職の読むお経がホールに響き渡る。

祭壇には西浩二(50)の満面の笑みの遺影が置かれている。

参列者が順番に線香をあげ、手を合わせ、多恵子、美織、静江の方に頭を下げて席に戻っていく。

× × ×

西真木子(48)が、スタッフに車椅子を押してもらいながら、祭壇の前に向かう。

真木子の後ろ姿を見て顔を歪める多恵

子。

心配そうに多恵子を横目で見る静江。
スタッフが焼香の手伝いを済ませ、車
椅子を多恵子の方に向ける。

多恵子、固まる。

多恵子「え？」

真木子、ぎこちなく、ゆっくりと多恵
子に頭を下げる。

多恵子、困惑した顔で真木子の姿を見
つめる。

真木子が顔を上げ、しばらく見つめ合
う多恵子と真木子。

美織、心配そうに多恵子を見て、

美織「誰？ママ？」

体が震える多恵子。

○葬式場・親族控室

部屋には向かい合って立っている多恵
子と静江。

多恵子、声を荒げながら、

多恵子「お母さん、どういうこと？」

静江「ごめん、多恵子：」

扉が開き、葬式場のスタッフが、真木子の車椅子を押しながら入ってくる。スタッフ、すぐにその場を立ち去る。多恵子、一瞬困惑するが、すぐに真木子を睨むように見る。

真木子、一生懸命パクパクと口を動かす、絞り出す様な声で、

真木子「ね、姉さん：」

多恵子、困惑し、真木子に背を向け、ぎゅっと目を閉じる。

真木子の声「ご、ごめんなさい：」

多恵子、ハツとするが、すぐに唇を噛みしめる。

多恵子「あなたに何があってそうなったのか知らないけど：今すぐに消えて」

真木子、ううっとうめき声を上げ、目から涙が零れ落ちる。

静江、真木子をゆっくりと抱きしめ、

背中を優しくさする。

多恵子の後ろ姿をちらっと見て、車椅子を押して真木子と出て行く静江。

○葬式場・廊下

車椅子を押す静江と、ううつとうめき声をあげる様に泣く真木子。

その姿を後ろから見つめる美織。

真木子のポケットに入っている手帳から、二枚の写真が床に落ちる。

落ちた写真を拾う美織。

一枚は静江の家の前で笑顔の多恵子(25)、

真木子(23)、静江が写っている。

もう一枚は真木子と浩二(25)が肩を寄せ合っている写真。

控室の前に向かい、開いた扉から、多恵子を心配そうに見つめる美織。

○西家・和室

浩二の仏壇を整えている多恵子。

美織が襖を開けて入ってくる。

美織「ねえ、ママ」

多恵子「どうした？」

美織「ずっと聞こうと思ってたんだけど、パパのお葬式の日にいたあの車椅子の人ってもしかして、ママの：」

拾った写真を多恵子に差し出す美織。

多恵子、写真を受け取り、じっと見つめる。

多恵子「そう、実はママの妹」

美織「そう：だったんだ」

多恵子「もう二十五年も会ってなかったかな」

美織、背中に真木子と浩二の写真を隠している。

美織「なんとなく、姉妹いたのかなって思ってた。今まであんまり聞かなかったけど。聞いちゃいけないような気がして」

多恵子、無言で仏壇を整える。

美織「何があったかとか、あまり良くわからなただけど：」

美織、多恵子の隣に腰を下ろす。

美織「ママ、いいの？このままで」

無言の多恵子。

美織「ママの後悔のないようにね」

美織、仏壇に飾られている浩二の遺影を冷めた目で見ながら、隠していた写真を片手でぐしゃっと強く握りしめる。もう片方の手で多恵子の背中をさすり、立ち去っていく美織。

○西家・リビング（夜）

アルバムをめくって、昔の写真を見ている多恵子。ところどころ写真が抜けている。その部分に触れる多恵子。

多恵子のスマホから着信音が鳴る。

多恵子「もしもし？」

静江の声「多恵子、あの…」

多恵子、何かを察知したかの様に、

多恵子「あの子のこと？」

静江の声「…うん」

多恵子「正直、あまりあの子の話は聞きたくない。あの姿を見て、確かに気にはなったけど……。ごめん」

静江の声「：うん。でも：母さん、後悔したくないから」

無言の多恵子。

静江の声「黙ってって言われてたんだけど、実はあの子ね：」

静江の言葉を聞いて、驚く多恵子。

多恵子「え？」

○病院・真木子が入院している病室（夜）

昏睡状態の真木子がベッドの上で眠っている。

多恵子、扉を開けて中に入る。

眠っている真木子を見つめる。

多恵子「聞こえてるかわからないけど」

眠ったままの真木子。

多恵子「正直この間あんたの姿を見て、少し：ううん、結構驚いた。何も本当に聞いて

なかつたから」

ベッドの隣の椅子に座り、真木子の手を握ろうと手を差し出すが、迷って手を引っ込める多恵子。

多恵子「でも、ごめん。やっぱり許せない。

あんたのしたことは、私は許すことが：どうしてもできない」

ポケットから、真木子が落とした三人の写真を取り出す多恵子。

多恵子「でも、最期に会えて：良かった」

立ち上がる多恵子。

多恵子「じゃあ：またね。今度：今度は」

写真を真木子の顔の横にそつと置き、そのまま病室を出て行く多恵子。